

## 令和6年度 誘導加熱技術部会技術交流・見学会「本田技研工業鈴鹿製作所」見学記

- 1.日 時：令和7年1月29日（水） 13:30～15:00
- 2.見学場所：本田技研工業鈴鹿製作所
- 3.説明者：本田技研工業鈴鹿製作所 松村様
- 4.出席者：17名（事務局2名含む）
- 5.概要：

今年度の技術交流・見学会は見学先の日程確保が非常に難しかったことから、誘導加熱技術部会とは日程を切り離し、1月29日に本田技研工業鈴鹿製作所を訪問した。開催当日朝に起きた近鉄線の事故により関西方面からの参加委員に遅れ及び欠席が発生し、参加委員数は予定していた19名から15名に減ることとなった。集合場所の近鉄線白子駅で事務局手配のマイクロバスに乗車して見学先に向かい、途中F1で有名な鈴鹿サーキットを横目にしながら本田技研工業鈴鹿製作所に到着。見学先担当者にご配慮いただき、当初の予定から30分遅れで見学会がスタートした。

到着次第大ホールに案内され、前方の大型スクリーンで会社概要の説明を受ける。同社は浜松で創業され鈴鹿製作所は国内3番目の工場であること、89万平方メートル（ナゴヤドーム18個分）の広大な敷地で7,800名の従業員が働いていること、生産台数は2,150台／日であることなど、スケールの大きさに驚かされた。開業当初の鈴鹿製作所はかの有名な二輪車「スーパーカブ」を生産しており、現在は四輪車のみ。フィット、ヴェゼル、軽自動車Nシリーズなどが生産されている。主な工程は（1）プレス⇒（2）溶接⇒（3）塗装⇒（4）車体組立⇒（5）検査。中でも（3）塗装については、①電着塗装⇒②シーラー塗布⇒③中塗り塗装⇒④ベース塗装⇒⑤クリア塗装⇒⑥塗装検査が実施されているとのことであった。

座学終了後、「HONDA」ロゴが入った白いキャップを頭にかぶり、広大な敷地内を再度マイクロバスに乗車して工場見学に移動。今回は軽自動車Nシリーズを生産している「No.2ライン」を見学させていただいた。移動開始直後、横目に見えてきたのは人が二人で何かを持ち上げている特徴的なデザインの噴水モニュメント「アイデアの泉」。本田宗一郎氏の創造的な発想や革新的なものづくりへの姿勢を象徴することを形にしたものと考えられている。

しばらくすると、「No.2ライン」に到着。1989年に稼働開始し、ライン全長は1,250メートル。生産能力は1,100台／日のことである。冒頭記載の開始時刻遅れが影響したのか工場入場時点でラインは休憩中で停止していたが、ご担当者より説明を受



写真1 正門付近にある「アイデアの泉」  
（同社 WEB サイト掲載画像を引用）



写真2 来場記念キャップと飲料水

けている間に休憩時間が終了し、生産ラインの稼働が開始。同じラインで最大8車種を取り扱っているとのことであり、生産する上での様々な工夫を見ることができた。生産に必要な部品などを車といっしょに移動させて作業漏れを防ぐ「同期ワゴン」、重量物であることから従来複数名で作業していたインストゥルメントパネルの取り付けを一名で対応できるようにした「らくらくハンド」、担当工程の作業に問題が生じた場合でも熟練作業者に支援を求められることができる「おたすけボタン」など、作業効率化と品質確保に関する同社の取り組みを肌で感じることもできた。また、フロントガラスの取り付けなど多くの作業がロボットにより自動化されている中で各工程の最終品質確認は熟練作業者が実施しているとのことであった。

ライン見学終了後はマイクロバスで正門付近に移動し、担当者と別れてそのまま帰路に。集合解散場所の近鉄線白子駅で参加者全員の集合写真を撮影し今回の技術交流・見学会を終了した。



写真3 近鉄線白子駅前で集合写真

【注】見学先敷地内は撮影禁止のため、写真は敷地外で撮影したもの及び同社WEBサイトの一般公開画像を引用